

編集後記

アカデミック・ジャパニーズ・ジャーナル (AJJ) 第 10 号は、特別寄稿 1 編、実践報告 3 編、調査報告 3 編、短信 4 編、エッセイ 1 編の計 12 編の掲載となりました。第 10 号という節目に AJJ 初代編集長の門倉正美氏に特別寄稿およびエッセイをご執筆いただきました。エッセイは AJG の創設期をふり返り、現在の AJ の置かれた状況を考える契機を与え、一方の特別寄稿は今後の AJ 教育に示唆を与える内容となっています。どちらも長編にもかかわらず、まったく飽きさせず最後まで読ませる筆力にあらためて感銘を受けました。

また、一般投稿も、地域交流からインストラクショナルデザインまで、これまで以上に多岐にわたる内容となっています。その中でも「日本語教師の役割とあり方をめぐる言説の変遷」に注目した古屋氏らの論考、「学習者が母国でどのような国語教育を受けてきたか」を探求する大野氏と荘氏の論考は、「ふり返る」という点でエッセイとの共通性があり、印象に残りました。

今後 AJJ においても AJG 創設期の自由闊達な雰囲気が引き継がれていくことを期待しています。会員の皆様、より多くのご投稿をお待ちしております。

(編集委員 N. T. 記)

刊行：2018 年 7 月

編集委員* (**は委員長)・アドバイザー五十音順

*大島弥生 (東京海洋大学)・石澤徹 (東京外国語大学)・伊藤奈津美 (早稲田大学)
小笠恵美子 (昭和音楽大学)・影山陽子 (日本女子体育大学)・小森万里 (大阪大学)
清水まさ子 (国際交流基金)・*鈴木秀明 (目白大学)・**田中信之 (富山大学)
寅丸真澄 (早稲田大学)・トンプソン美恵子 (早稲田大学)・中山亜紀子 (広島大学)
ボイクマン総子 (東京大学)・松本明香 (東京立正短期大学)・宮崎七湖 (新潟県立大学)
三代純平 (武蔵野美術大学)・茂住和世 (東京情報大学)
山口麻子 (テンプル大学ジャパンキャンパス)・*吉田美登利 (東京工業大学)
脇田里子 (同志社大学)